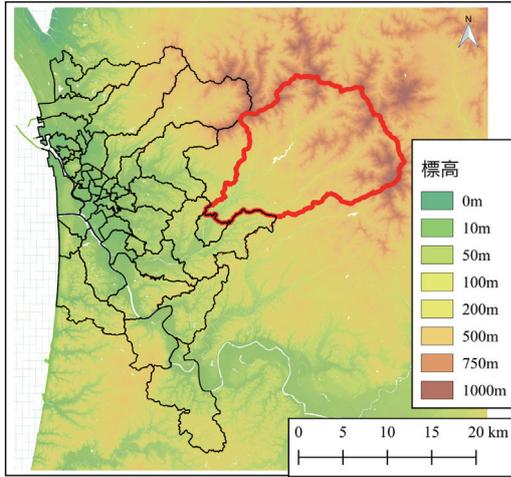


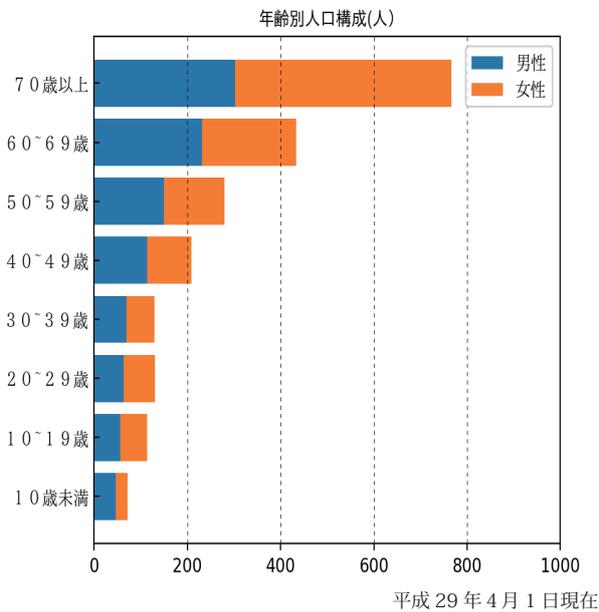
43：岩見三内小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	2,135 人
世帯数	907 世帯
65 歳以上人口	980 人
10 歳未満人口	72 人



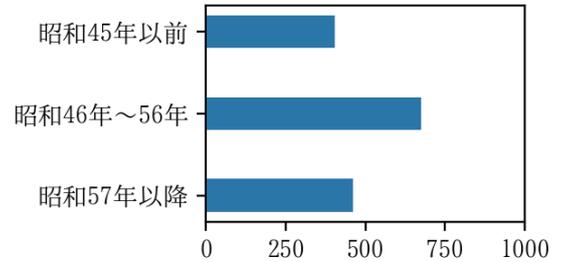
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	1539
非木造建物	47

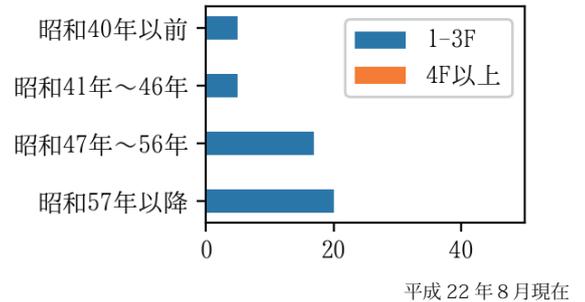
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	460
昭和46年～56年	676
昭和45年以前	403



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	20	0
昭和47年～56年	17	0
昭和41年～46年	5	0
昭和40年以前	5	0



自然的・社会的基本指標

秋田市北西部に位置し、岩見川・三内川の中・上流域の山地部にある学校区である。急傾斜地等の危険箇所が多数ある。集落は、河川に沿った低地谷底平野部に散在する。人口構成は、高齢者層ほど比率が高くなり、65 歳以上の高齢者は全体の 46% を占め、とくに高齢の女性の占める割合が多くなっている。昭和 46 年以降の木造建築物が大半を占める。非木造建物は建築物全体の 3% と少ない。昭和 57 年以降の建築物は全体の 30% である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	岩見川		
浸水面積 (%)	0.7		
最大浸水深 (m)	ランク 5		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	25	三内段、東、繁沢前田表、繁沢、砂小淵、杉沢、野崎、八慶、岩谷袋 他
土石流危険渓流	20	鵜養沢、丸舞口沢、岩谷袋沢、繁沢、繁沢沢、穴淵沢、三内段沢、小平岱沢 他
地すべり危険箇所	2	砂子淵、岨谷峡
なだれ危険箇所	15	繁沢前田表、東、砂子淵、繁沢、小平岱 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.64)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	0	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率 (%)	2.0	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	(該当なし)
最大浸水深 (m)	(該当なし)

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	2
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	0

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	1
こども園	0
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	1

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	1
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	145
防火水槽 (箇所)	29
消防車台数 (台)	10
消防ポンプ数 (台)	12
消防団員数 (人)	80

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	1
土砂災害	6
地震	6
津波	0
福祉避難所	1
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田南消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	0
最寄りの救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	7

自然災害時の危険要素

岩見川の氾濫により、岩見川の新川地区より下流部の左右岸に浸水する可能性が想定されている。学校区の中心市街地付近でも最大 5m 未満に及ぶ浸水となるとされている。三内川については、上流に岩見ダムがあることもあり洪水による浸水は想定されていない。

土砂災害が発生する可能性の高い箇所は多く指摘されているが、警戒区域等の指定は現時点ではない。地震動として学校区全域で揺れやすさに差はないものとみられる。液状化の危険性は、低地部で高い。津波による浸水の可能性は極めて低いと想定されている。

防災上の課題と対策

岩見三内小学校区は、約 222 平方 km と秋田市最大の面積を持つが、そのほとんどが山地である。岩見川と三内川の合流点付近の低地部に市街の中心があり、その上流域では集落が散在している。土砂災害並びになだれの危険性が高い箇所となっている集落も多い。

建物の多くは旧耐震建築物である。

学校区内に医療施設はなく、日常から緊急搬送手段の確保が重要である。学校区外との交通路が限られていることもあり、特に冬季の輸送について配慮が必要である。

人口流動性が低い地域であることから、地域内の協同・相互補助の意識は高いと見られるものの、地域特性から見て、災害時の情報連絡体制の高度化と、学校区外の地域や補助団体等との平時からの協同関係の構築・交流などが有効であると考えられる。市内外のNPOなどと日常的な交流を

通じた地域の防災力の維持向上も有効である。

指定避難所および緊急時一時避難場所のほとんどは、地域の中心部にある施設である。地域の中心部は洪水の危険性が高いことから、集落等を単位に避難場所や避難の方法・経路について、避難のタイミングや垂直避難などの方法を含め、地区避難計画を検討し、訓練などによりその実効性を確認するなどの事前の防災活動が望まれる。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
旧岩見三内小学校 グラウンド	x	x	○	○	x	x	7,270人
岩見三内小学校（体育館）	○	x	○	○	x	x	110人
岩見三内中学校グラウンド	x	x	○	○	x	x	6,260人
岩見三内中学校（体育館）	○	x	○	○	x	x	348人
秋田市河辺高齢者健康づくりセンター （ユフォーレ体育館）	○	○	○	○	x	x	178人
河辺岩見三内地区 コミュニティセンター	○	x	○	○	x	x	259人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
秋田市河辺老人デイサービスセンター	河辺三内字外川原 34-2	018-883-2770

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

